

特定非営利活動法人 Cloud JAPAN
2019 年度 活動報告書

令和 2 年 3 月末日



特定非営利活動法人 Cloud JAPAN
代表理事 田中 惇敏

mail. info@cloud-japan.org
tel. 0226-29-6514
fax. 0226-25-7523

目 次

1. ソーシャルアントレプレナーが集う場づくり支援事業
 - 1.1 子育てシェアスペース Omusubi
 - 1.2 錦江町ゲストハウス Yorodde
2. ソーシャルアントレプレナーが集う場の運営支援事業
 - 2.1 気仙沼ゲストハウス ” 架け橋 ”
 - 2.2 絵本カフェ架け橋
3. ソーシャルアントレプレナーの資金調達支援事業
 - 3.1 クラウドファンディング支援
4. 地域で活動するソーシャルアントレプレナーに係る情報発信事業
 - 4.1 地域貢献型ゲストハウス開業合宿
5. ソーシャルアントレプレナーの育成及び事業促進の教育支援事業
 - 5.1 特定非営利活動法人新川田竈環境資産保全研究会 設立
 - 5.2 株式会社燈 設立
6. 運営組織
7. 取材対応
 - 7.1 書籍出版
 - 7.2 新聞、メディア
8. 収支報告
 - 8.1 2019年度活動計算書
 - 8.2 事業別損益の状況
 - 8.3 過去5年の助成受託実績
9. 終わりに

1. ソーシャルアントレプレナーが集う場づくり支援事業

本事業では、全国のソーシャルアントレプレナー（NPO 法人 Cloud JAPAN では「誰かのために何かをする喜びを楽しんでいる人たち」と定義する）が地域貢献する上での活動を空き家活用を通して支援している。全国の地域で活動するソーシャルアントレプレナーは、活動したい内容があっても活動場所がなく苦慮することが多い。

そこで、一般的な起業家支援（資金調達、法人設立、経理指導 等）に加えて空き家改修支援をセルフビルド手法で住民やスタッフと行うことで、ソーシャルアントレプレナーが地域との信頼関係を築くと共に NPO 法人 Cloud JAPAN スタッフとの信頼関係を築いている。

NPO 法人 Cloud JAPAN では、これまでの経験から地域に根ざして持続可能な活動にする上で最も重要なことを「住民との信頼関係」だと感じており、上記の通り、半強制性を持って住民との絡まりしろを作ることが長く続くビジネスの秘訣だと感じる。

今年度は、2 施設が立ち上がり、設立から 1 2 施設の立ち上げを通してソーシャルアントレプレナーを支援した。次項より詳細を表記する。

なお、以下の「全国どこでも、ただいまプロジェクト」表記方法を今年度から改定し、空間活用の機能により色分け（●ゲストハウス、●シェアハウス、●その他）し、直轄事業を青文字、すでに事業が終了している事業を灰色文字表記とした。



1.1 子育てシェアスペース Omusubi

「子育てシェアスペース Omusubi」は、宮城県気仙沼市の空き家改修支援事業である。Cloud JAPAN では、法人設立・改修資金の調達支援を主に担当した。

この事業の成果として大きなものに、「改修」に多くの子育てママ以外の参加者が参加して意見交換ができたことがある。被災地、気仙沼における子育てママの悩みや課題を改修に参加した市民が理解できた。

また、私たちは日々、子育てママと話すことが当たり前になっていたが、一般の市民は交流の場がほとんどないという気づきを得た。これは、本事業で目的とした「子育てを多世代と共有」することは本年度前半において大きく寄与した。

次に市長や関係機関の皆様に参加して頂いた2月4日の完成式典を例にとると、社会的なインパクトも大きかったと考える。完成後も宮城県内のみならず全国から大学関係者や保育関係者の視察や取材は相次ぎ、活動の必要性について社会にアピールできたと考えている。

震災から10年という節目で持続可能な運営システムを構築し、被災地から日本を変えたプロジェクトとして評価されるよう今後も永きに渡って支援していく所存である。

今後の運営は、一般社団法人 Omusubi が担当していくが、継続的な併走支援のため、以下の通り、役員や職員に NPO 法人 Cloud JAPAN のスタッフが従事する。

法人名：一般社団法人 Omusubi

法人登記日：2019年3月11日

共同代表理事：村上和佳奈（保育士）、村松ももこ（看護師、CJ 理事）、田中惇敏（CJ 代表理事）

職員：畠山里美（保育士）、佐藤沙織（保育士）、佐藤祐美（保育士、気仙沼市地域おこし協力隊）、竹中幸（子育て支援員、CJ 経理スタッフ）、川嶋奎（気仙沼市地域おこし協力隊、CJ 理事予定）、伊藤愛（子育て支援員、CJ スタッフ）

Web サイト：[https:// omusubi .com/](https://omusubi.com/)



改修中の様子



2月8日オープニングセレモニー

各事業の現状及び変遷を以下（本項、次項）にまとめる。

1) 改修：空き家（市役所徒歩5分）を3つの機能を持たせた施設に住民と改修

改修開始から完成までにスタッフ、シェアメイト、近隣住民、遠方ボランティア、大工を含む改修に関わった人数が234名となった。

特筆すべきは、施工を通して子育てに関心を持ってもらいたい近隣住民46名に参加してもらったことであり、10代学生女性、高齢男性や未婚男性が、子育てママと施工を通して関わり、子育て環境を考える機会になったことである。

改修の日々の様子は、以下のサイトより確認できる。

<https://note.com/omusubi0311>

2) 託児：認可外保育施設 / 一時預かり事業一般型として運営

改修工事期間中は保育士を常駐させ、こどももたちとも作業を一緒に行った。

2/4 オープンし、週 4 日の託児所、週 1 日の開放日を設けて運営している。

保育士 1 名 + 子育て支援員 1 名を常駐し、3 月末までの利用者は 86 名となった。

3) シェアハウス：生活を楽しみ、気仙沼に残りたいと思える女性専用シェアハウス

8～9 月に 10 名、2～3 月に 11 名の復興創生インターン生とスタッフが利用した。

4 月から看護学生 3 名、市内就職者 2 名、弊社新入社員 1 名の入居が決まった。

4) ママの心の休息スペース：安らげる環境（睡眠、趣味、勉強）を作り、もう一人子どもを産みたいと思える心のゆとりを生む

2/4 オープンし、シェアハウス利用の後、週 5 日運営していたが、新型コロナウイルス対策として営業を当面見送っている。



1.2 錦江町ゲストハウス Yorodde

本章では、鹿児島県肝属郡錦江町から業務提携を受けた「錦江町空き家リノベーション及び運営にかかる基本構想策定業務業務」の仕様書をもとに業務全般を整理する。

1.1 業務の目的

錦江町が 2019 年度に鹿児島県の補助金を受けて、商店街に位置する町内の空き家を 10 年間借上げ、リノベーションし、宿泊・交流施設として活用するモデル事業を展開する。リノベーションの基本コンセプトについては、「自活できる観光・交流施設、町民にとってプラスになること、住民が誇りを持てるものとなること」等とするが、町内の若者、女性、商店街の関係者による地域の困りごとから、有用資産へ昇華させていき、空き家所有者、町民、社会の「三方良し」の関係を実現することを目的とする。

1.2 受託業務内容

(1) リノベーションに係る基本構想策定

- ①空き家リノベーションのコンセプト及び間取りや改修箇所などの基本構想案を住民等の意見を踏まえ策定すること。
- ②策定にあたってはワークショップなどの効果的な手法を用いることとし、本事業に対する住民等の主体的な意識の醸成に心がけること。
- ③ワークショップ等の開催にあたっては、担当職員と十分に協議のうえ、当日の運営などにおいて中心的な役割を担うこと。
- ④リノベーションの実施設計を外部発注するため、実施設計受託事業者との調整会議に参加すること。

(2) 運営に関する基本構想策定

- ①リノベーション後の用途や運営主体・方法などを含む基本構想案を住民等の意見を踏まえ策定すること。
- ②策定にあたってはワークショップなどの効果的な手法を用いることとし、本事業に対する住民等の主体的な意識の醸成に心がけること。
- ③ワークショップ等の開催にあたっては、担当職員と十分に協議のうえ、当日の運営などにおいて中心的な役割を担うこと。

(3) その他

- ①上記 (1) 及び (2) のほか、事業に主体的に参加する人材の確保や育成のために有効な手法があれば実施すること。
- ②鹿児島県半島特定地域元気おこし事業（県改修補助事業）以外で実施する参加者とのリノベーション作業がある場合、その指導、助言を行うこと。
- ③業務実施にあたっては、打合せも含め 10 回以上は錦江町内で実施すること。



受託に伴い、パネルを作成した。2019.4.23

1.2.2. リノベーションに係る基本構想策定

本章では、主にハード事業について事業実施内容を整理する。

1.2.2.1 目的

仕様書より再度、下記の通り転載する。

- ①空き家リノベーションのコンセプト及び間取りや改修箇所などの基本構想案を住民等の意見を踏まえ策定すること。
- ②策定にあたってはワークショップなどの効果的な手法を用いることとし、本事業に対する住民等の主体的な意識の醸成に心がけること。
- ③ワークショップ等の開催にあたっては、担当職員と十分に協議のうえ、当日の運営などにおいて中心的役割を担うこと。
- ④リノベーションの実施設計を外部発注するため、実施設計受託事業者との調整会議に参加すること。

1.2.2.2 業務内容

下記の業務を実施した。

1.2.2.2.1 各種基本設計図面作成

平成29年度に集約した住民の意見を基に地域住民や地域おこし協力隊と共に基本設計を行なった。

施工前から住民の意見を取り入れた段階、実際の施工や運営を意識して調整した段階、最終基本設計段階、宇住庵設計作成段階を各種整理し、各段階間の変更点を右に示す。

1.2.2.2.2 視察研修実施

気仙沼市内にて視察研修を行なった。

研修にあたっては、同様に全国各地でゲストハウス起業を志す若者（以下、「ゲストハウス起業希望者」）と混ぜることで参加者同士の切磋琢磨する繋がりや開設後のネットワークに寄与できることを追加の目的とした。

・1日目

日時：2019年6月22日

場所：気仙沼ゲストハウス「架け橋」

（宮城県気仙沼市長磯前林55番地3）

参加者：未来づくり専門員（山中、井上、馬場）、ゲストハウス起業希望者（山川夏菜、澤田響）、架け橋スタッフ（村松、佐藤、木原）、田中計9名

研修内容：田中が設立当初からの失敗も含めた講演で話せないような紆余曲折、実際の施工箇所を確認しながらの空き家改修におけるノウハウ、ゲストハウス経営における数字の見方を伝授した。また、実際にゲストハウス架け橋に泊まり、細かな建材の使い方や空間を肌で感じた。

・2日目

日時：2019年6月23日

場所：気仙沼ゲストハウス「架け橋」および周辺地域

（宮城県気仙沼市長磯前林55番地3）

参加者：未来づくり専門員（山中、井上、馬場）、ゲストハウス起業希望者（山川夏菜、澤田響）、架け橋スタッフ（村松、佐藤、木原）、田中計9名

研修内容：Cloud JAPAN 理事である村松がゲストハウスオーナーとして毎日のゲストハウス運営を担っているため、日々のタスクにおける留意点や運営上出てくる課題、地域連携のノウハウなどを実際に体を動かしながら学んだ。

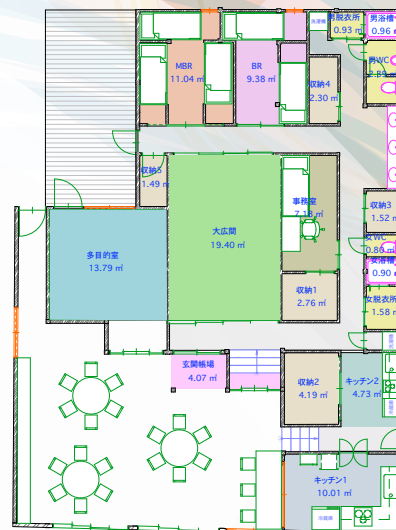
・3日目

日時：2019年6月24日

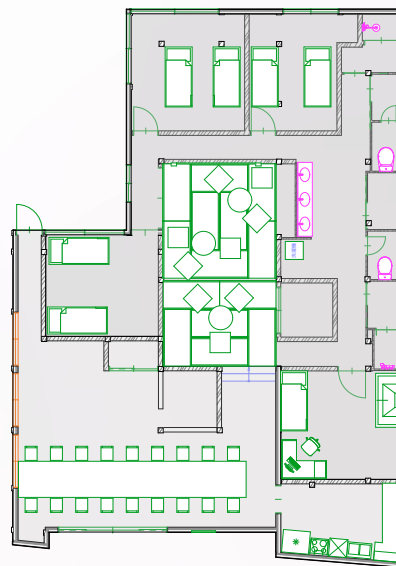
場所：気仙沼ゲストハウス「架け橋」および周辺地域

（宮城県気仙沼市長磯前林55番地3）

参加者：未来づくり専門員（山中、井上、馬場）、ゲストハウス起業希望者（山川夏菜）、



住民の意見を未来づくり専門員と図面化した。
2019.7.2



宇住庵設計の図面をCAD化した。2019.11.29



架け橋スタッフ（村松、佐藤、木原）、田中 計 7 名
研修内容：気仙沼市内の観光関連団体を訪問した。

・ 4 日目

日時：2019 年 6 月 25 日

場所：ゲストハウス 3710、あずま家および周辺地域
（岩手県宮古市末広町 4－6）

参加者：未来づくり専門員（山中、井上、馬場）、架け橋スタッフ（村松、佐藤、木原）計 7 名

研修内容：実際に施工中だった釜石のゲストハウス「あずま家」の施工現場視察並びに宮古市のゲストハウスに宿泊した。



あずま家での施工の様子。2019.6.25

1.2.2.2.3 実施設計パース作成

宇住庵設計の作成した平面図を基に完成段階の平面図、パース等を作成した。

作成したパースは、住民向け説明会、クラウドファンディングのスケッチの下絵並びに大山建設との施工の打ち合わせに用いた。

一部を下記に掲載する。



小上がりした居間のような空間



入り口入ってすぐの空間（夜間）



入り口入ってすぐの空間（夜間）



2 段ベッドを 2 台並べる部屋



正面から見た外観予想



上空から屋根を透過した状態の全景

1.2.2.2.4 カフェ空間の設計コンペティション開催支援

東京理科大学建築サークル DOC（代表：砂田和樹）と共働してカフェ空間の設計コンペティションを開催した。

コンペ概要：東京理科大学建築学科、芝浦工業大学建築学科の学生 11 名を 4 グループに分け、グループ設計形式で 1 月 26 日から 2 月 28 日の期間、設計を行った。

最終審査会を 3 月 8 日に開催し、一案に絞った。

なお、最終審査会の遅延及び施工 WS 中止については、新型コロナウイルスに対する変更となった。社会情勢が落ち着き次第、施工 WS の再検討を始める。

エスキス：7 回（1/26,2/1,2/5,2/8(中間発表),2/12,2/17,2/23) 各 2～4 時間



オンラインエスキスの一幕。2020.2.1

1.2.2.2.5 その他

完成までの手順書等、各種資料を作成した。

以下に作成に関わった代表的な作成資料の表紙をまとめる。



ゲストハウス研修教科書（135p）



DOC コンペ募集要項（7p）



会社設立企画書（v6,10p）



1.2.3. 運営に関する基本構想策定

1.2.3.1 目的

仕様書より、再度下記の通り転記する。

- ①リノベーション後の用途や運営主体・方法などを含む基本構想案を住民等の意見を踏まえ策定すること。
- ②策定にあたってはワークショップなどの効果的な手法を用いることとし、本事業に対する住民等の主体的な意識の醸成に心がけること。
- ③ワークショップ等の開催にあたっては、担当職員と十分に協議のうえ、当日の運営などにおいて中心的な役割を担うこと。



ワークショップの様子。2019.9.23

1.2.3.2 業務内容

1.2.3.2.1 ワークショップ開催

下記の通り、5回開催した。

1.2.3.2.1.1 クラウドファンディング勉強会

日時：2019年4月26日

場所：神川地域活性化センター

参加者：町民8名、未来づくり専門員3名、町役場等の公務員5名、e.lab 谷川氏、NPO 法人 Cloud JAPAN（田中）

内容：クラウドファンディングの概要やその裏側について説明。その後、各クラウドファンディングの事例を井上氏に紹介してもらい、今後の流れを整理した。

1.2.3.2.1.2 ソフト事業の作り方

日時：2019年6月8日

場所：神川地域活性化センター

参加者：町民7名、未来づくり専門員4名、町役場等の公務員5名、e.lab 谷川氏、NPO 法人 Cloud JAPAN（田中）

内容：ゲストハウス完成後のソフト事業の事例を紹介した後、SWOT 分析で地域を分析し、トランプ形式で掛け算による新しい企画を考えた。

1.2.3.2.1.3 施工体験

日時：2019年9月23日

場所：神川地域活性化センター

参加者：町民5名、未来づくり専門員3名、町役場等の公務員9名、e.lab 谷川氏、NPO 法人 Cloud JAPAN（田中）

内容：今後始まる施工について注意点や工夫点の共有を行った。その後、実際に施工の楽しさを感じるよう流木を使ったアート照明を作成した。

1.2.3.2.1.4 ゲストハウスの現場から成功と失敗

日時：2019年11月2日

場所：神川地域活性化センター

参加者：町民3名、未来づくり専門員3名、町役場等の公務員5名、NPO 法人 Cloud JAPAN（理事：村松、スタッフ：木原）

内容：ゲストハウス架け橋のオーナーを3年務めた村松と半年スタッフをした木原が現場の現実について話をした上で、質疑応答の時間をとった。

1.2.3.2.1.5 Web サイト作成方法

日時：2020年1月26日

場所：神川地域活性化センター

参加者：町民4名、未来づくり専門員4名、町役場等の公務員5名、NPO 法人 Cloud JAPAN（田中）

内容：Web サイトの作成方法、各作成サービスの特徴や違いを整理した上で、実際によろっでの Web サイト立ち上げを実演した。

1.2.3.2.2 クラウドファンディング調達支援

2019年10月30日に開始し、246名の支援により2,198,939円の資金を集め、2019年11月29日に募集を終了したクラウドファンディングの資金調達の支援を行った。

1.2.3.2.2.1 文章の添削

未来づくり専門員・井上様の作成した文章の追記・編集を行った。

1.2.3.2.2.2 パース作成

クラウドファンディングページで完成のイメージがわかるようなパースの作成下地を作成した。

1.2.3.2.2.3 各種画像作成

返礼品のイメージ画像等を作成した。

1.2.3.2.2.4 広報

公開後はイベント登壇時やSNS等で広報の支援を行った。

1.2.3.2.2.5 返礼品作成

プロジェクト達成後は、返礼品の作成を行った。



リターン券の各種デザイン

1.2.3.2.3 各種資料作成

売上試算表をはじめとする運営に関する資料を作成した。

1.2.3.2.4 株式会社設立支援

旅館業運営法人にあたる「株式会社燈」設立に関する設立登記資料や会議資料の作成支援を行った。また、NPO法人Cloud JAPANとして5株の株主になり、取締役役に代表理事の田中が就任した。

1.2.3.3 考察

今回の空き家リノベーション事業を実施して見えてきた錦江町の今後の空き家対策に関連する提案事項をまとめた。

1.2.3.3.1 空き家バンク民営化

今回のゲストハウスよろっでの改修事例は、今後の売上次第では錦江町内の空き家改修事業のシンボルとしての位置付けを持つ可能性を感じている。

多くの空き家所有者は、家を綺麗にしてもらい、家賃収入が入るなどよろっでのように活用してもらうことを望むと推測できる。

所有者がその相談をする際、よろっでがそのまま相談所となればイメージも沸きやすく、よろっでも地元を訪れる相乗効果が生まれる。

また、よろっでの夜間の飲食時間などで地元の方から「あそこに空き家がある」「あそこの持ち主さんは、あの人だ」「その人の連絡先分かるから今度聞いてみとくね」と言った自然の会話の中から有用な空き家が見つかることも多いだろう。

一方、よろっでは観光客や地域活性化に関連する活動をしている顧客が泊まる。上記の地元の方の会話に「実は私は地域でカフェしたくて、そんな素敵な空き家があるなら借りようかな」「移住先の住む場所として検討しようかな」「こんな活用したら面白くなるんじゃない」など地域外の人間のアイデアや行動が重なることで新たな取り組みが生まれることに期待する。

空き家の交差点としてよろっでを位置付け、よろっでスタッフに情報収集の役割を担わせることで財源が有効活用されることを望む。

1.2.3.3.2 シェアリングエコノミーに対する理解と活用

現在、「AirBnB」「HafH」「ホステルパス」「ADDRESS」をはじめとした空き家活用や旅館業を取り巻くシェアリングエコノミーサービスが世界的に流行している。

各種サービスの使用経験や各社役員との意見交換の中で見えてきた錦江町の空き家との親和性を整理する。

まず現在、台頭してきているサービスを「ホームシェア型」「サブスクリプション型」「複合型」の3つに大別する。



・ホームシェア型

代表的なサービス：Airbnb (<https://www.airbnb.jp>)

この形態は、旅館業を取得しなくても民泊新法に準拠するだけで営業できる。

弊社のゲストハウスでも活用しており海外の旅行客が主要な利用となっているが、日本人もキッチンが使える、ゆっくり過ごせる、大人数で泊まれるなど若手世代を中心に利用も増えてきている。

そこで、錦江町ではゲストハウス よろっでの Airbnb 登録とともに、隣接するシェアハウス、町内に位置する3軒の錦江町がリノベーションしたシェアハウスなどの登録を進め、利用していない時期の有効活用を提案する。掃除等の現場管理、ワーケーションなどのダブルブッキング管理等の対応は必要だが、一括して燈が請け負うことで問題はなくなるだろう。現在、Airbnb に登録されている物件は、大隅半島では鹿屋市が最南端になっており、最南端を目指す観光客に様々な宿泊の提案ができれば魅力が上がるだろう。

・サブスクリプション型

代表的なサービス：HafH、ホステルパス (<https://hafh.com>) (<https://hostellife.jp>)

この形態は、旅館業を取得しているゲストハウスがグループを組み運営しているサービスである。観光客やサービス利用者は、毎月定額を支払い続けることでグループに所属するゲストハウス全てに指定日数分無料で泊まることができる。

弊社のゲストハウス架け橋では、ホステルパスのグループ宿になっているが、あまり使われることはない。これは、こう言ったサブスクリプション型のサービスの想定している利用者がアドレスホッパー、多（無）拠点居住者を想定しているからであり、観光客が多く訪れる地では活用の見込みはないかもしれない。

一方、HafH は、長崎発のサービスであり、九州に強いネットワークを持ち、月額利用料が発生するわけではないため、よろっでとしての活用は前向きに考えるべきだと感じている。また、私は個人的に HafH 利用者であるが、今後、全国出張が増えるであろうよろっでスタッフには自信を持って勧めることのできるサービスである。

・複合型

代表的なサービス：ADDRESS (<https://address.love>)

この形態は、サービス提供者側のグループに入って空き家を改修し、サブスクリプション型で提供する形態である。

ADDRESS 佐別当社長が大事にするのは、地域の魅力を利用者に提供できる空き家の運営者であり、現在、一番伸びてきている形態であることから、空き家バンク活用の中で良い空き家が出てきたときには検討しても良いかもしれない。

1.2.3.3.3 類似事例整理

最終章では錦江町の魅力や課題全般を捉え先行事例の整理を行う。

まずゲストハウス完成後の運営について、立地的な観点から待っているだけではお客さんが来るわけではないことは自明である。

錦江町は全国的に見ても国等の制度を使い、うまく人を呼んでいるが、私は民間の立場から民間のサービスについて列挙し、その特徴と錦江町との親和性についてまとめる。

まず、「おてつだび」(<https://otetsutabi.com>)を紹介する。リンクを参照して頂き事業内容等はここでは割愛させていただきたい。錦江町の一次産業は季節労働が発生しやすい構造にあり、旅の目的が他と比べ弱くても人の流れを作ることができる。

おてつだびそのものの導入を進めるわけではなく、コンセプトを導入、つまり、ゲストハウスは観光地の魅力に甘んじてただ宿泊を待つのではなく、昼間のアクティビティを地域から発掘し、翻訳して届ける必要があるのだと感じる。

また、「TABICA」(<https://tabica.jp>)のように錦江町の一住民から発生する体験コンテンツもあるはずだ。日々の地域との連携から新たな「錦江町に来る理由」を作っていくって欲しい。最後に地域おこし協力隊制度についても触れたい。今後、錦江町が発展していくためには未来づくり専門員にも観光などのプロが揃う必要があると考える。釜石市の地域おこし企業人のように専門家を集める仕組みを令和3年度以降、進めていく必要があるだろう。

1.2.4. その他

1.2.4.1 目的

仕様書より、再度下記の通り転記する。

- ①上記（１）及び（２）のほか、事業に主体的に参加する人材の確保や育成のために有効な手法があれば実施すること。
- ②鹿児島県半島特定地域元気おこし事業（県改修補助事業）以外で実施する参加者とのリノベーション作業がある場合、その指導、助言を行うこと。
- ③業務実施にあたっては、打合せも含め 10 回以上は錦江町内で実施すること。

1.2.4.2 業務内容

1.2.4.2.1 大学サークル連携

改修工事には多くの学生の人材確保が必要である。1.2.2.2.4 項でも触れたが、今回は弊社事業の繋がりから「東京理科大学建築サークル DOC」を紹介し、カフェ部分の設計業務における住民の意見を取り入れ、洗練されたデザインになるようコンペティションを開催した。

また、3 月の改修期間中に 4 タームに分け、計 36 名が 1 週間滞在する企画を作っていたが、新型コロナウイルス対策により東京理科大学からの要望を受け中止となった。

1.2.4.2.2 現地業務

以下 11 回の計 40 日間の通り、NPO 法人 Cloud JAPAN スタッフが錦江町内で本事業を実施した。

4/25-4/26：ワークショップ開催

5/20-5/24：打ち合わせ

6/3-6/11：ワークショップ開催

(6/21-6/26：勉強会@気仙沼)

7/2-7/6：打ち合わせ

9/23-9/24：ワークショップ開催

10/17-10/21：打ち合わせ

11/2-11/3：ワークショップ開催

11/29-11/30：打ち合わせ

1/7-1/10：打ち合わせ

1/26-1/27：ワークショップ開催

2/22-2/23：打ち合わせ

1.2.5. まとめ

錦江町民、役場職員、未来づくり専門員の皆様のご協力のおかげで滞りなく事業が終了し、実りのある 1 年間の業務であったと感じる。一方、ゲストハウスでの売上実績が業務全体の評価を左右することを引き続き肝に銘じ、令和 2 年度も公私共に錦江町に関わり続けていきたい。

1.2.6. 参考資料

- ・錦江町空家等対策計画（平成 31 年 1 月）
- ・錦江町空き家情報バンク制度 公開カード

。



2. ソーシャルアントレプレナーが集う場の運営支援事業

本事業では、全国での活動支援するにあたり、経験を貯蓄し続けること、つまり私たち自身もソーシャルアントレプレナーであり続けることが大事であると感じており、「気仙沼ゲストハウス”架け橋”」「気仙沼絵本カフェ架け橋」を運営している。

2.1 気仙沼ゲストハウス”架け橋”

「気仙沼ゲストハウス”架け橋”」は、平成 28 年 12 月 7 日に旅館業営業許可（宮城県指定第 502 号）を受け、運営してきた。

コンセプトを「被災地気仙沼から、第二の故郷気仙沼へ。」とし、多くの努力と犠牲の上で成り立った復興後の被災地に継続して観光客が来る仕組みづくりをしている。この効果は私たちが言及するものではなく、多くの観光客が SNS を更新してくれている中で見えてくるものであろう。以下には、本事業をタグ付けしてくれ、かつ、公開アカウントの観光客の投稿を引用した。

観光客は地元の人との交流を求めてくるため、夜間の観光客の飲食場所では居酒屋営業を毎日行ったり、「夜な夜な架け橋」という観光客と住民の交流イベントを週 1 回程度行い、食事を囲みながら自然な交流が生まれる仕組みになっている。

2019 年度は、985 名の宿泊があり、本事業単体での売上は 5,967,220 円（事業売上 100%、補助金等 0%）となった。

また、本事業では、過去に 3 名の長期（7 ヶ月から 9 ヶ月）有給インターンの学生、9 名の短期（1 週間～1 ヶ月 2 週間）有給インターンを受け入れてきた。これは、ゲストハウスの経営と運営を現場で学ぶことでアントレプレナーシップ及び地域との関わり方を学ぶ場として活用する意味がある。

2019 年度は木原葵氏（中央大学 4 年、1 年休学）が長期インターンとして活躍した。右記に木原氏の投稿を引用する。

もちろん上記の目標通りの多くの経験を積んだが、加えて自分が自分としていくことへの肯定感や南米旅行（インターン後、実際に 2 ヶ月半の旅行を経て無事に帰ってきた）などの次への挑戦へと続いていった。



2.2 絵本カフェ架け橋

気仙沼絵本カフェ「架け橋」は、平成28年12月7日に飲食業営業許可（宮城県指定第501号）を受け、運営してきた。本項では絵本カフェ代表の半沢が執筆する。

同建物内で行っているゲストハウスの昼間の使われていない時間帯を利用して震災復興事業をするにあたり、親子がゆっくり過ごせる空間をと考えて絵本カフェを始めた。

私自身、東日本大震災で実母を亡くし、震災当時に生後半年だった長女、その後に生まれた次女、三女の3姉妹の子育てに日々奮闘していると、ふと自分の時間がないなと感じたり、日々復興とは聞くけれど子育てを楽しんでいる街には復興していないなと感じている。急に病院に行く必要があるときに子どもたちをどうしよう…ちょっと疲れてイライラするけど休んではいけないし…そんな時に周りに頼れる人がいなかったり、すぐ対応してくれる事業所がなかったりする人がどんなに大変なんだろうと思う。私には幸い周りに助けてくれる人がいてくれてそのおかげで子育てが無理なく楽しい。その助けてくれる存在に私がなれないかと考えたときに自由な時間を人と人のつながりを生かして一緒に提供する場を作ろうと思った。心が少しでも休まる条件は人によって様々なので、その要望にできる限りの形で応え、自由な時間を過ごしてもらうことでリフレッシュしていただき、私のように子育てが楽しいと思えるようになってほしいと思って始めた。

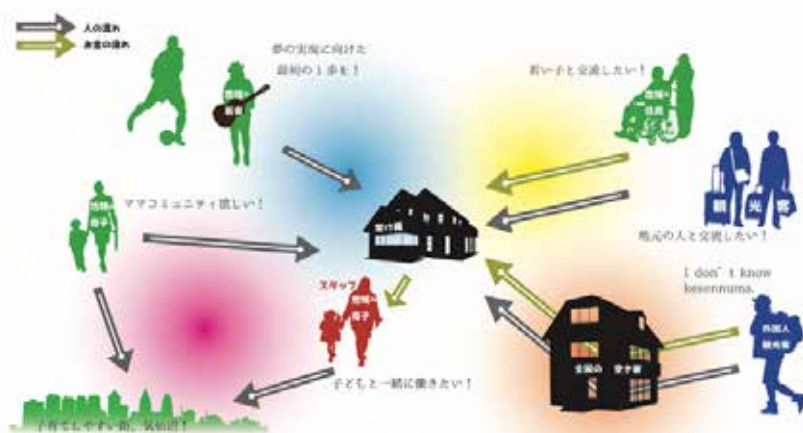
子連れスタッフが運営しているので親子で飲食店に子どもを連れていくときに大変だと思うことを軽減できる取り組みを行っている。スタッフが子育て中なので来店したママの相談を聞いたり、ゆっくり温かいご飯が食べられるように子どもと遊んであげたりすることができる。来店客は子連れスタッフがいて子どもが騒いでもお互いさまという空間を作っているのも周りの目を気にせず過ごしていただいている。

もちろんカフェなので親子以外の来店（地域のお年寄りや一般客）もあるが子どもがいると分かって来店してくれているので子どもと遊んでくれたりと異年齢交流も盛んにできている。



絵本カフェ代表：半沢裕子

1983年7月13日、気仙沼市出身、3児の母親。2019年度は「ぬま大学」にも参加し、経験を積む中でアントレプレナーシップを持ち始めた。



同建物で夜はゲストハウスを行っており、宿泊したお客様が昼間も子どもやママとの交流をしてくれたりする。

イベントも親子で来ても一人で来ても老若男女問わず参加することができるように企画・運営している。子連れで行きにくいマッサージや整体なども出張で来ていただき開催することで子育てで疲れた体のリフレッシュをしてもらえるように地域にお手伝いをいただき連携していただいている。

子育て中の親子が周りの目を気にせず物事に取り組む、ゆっくり子どもと同じ空間で誰かに子どもの面倒を見てもらいながら自分の時間を持つなどどうしてもできないもので子どもを持つまで出来ていた温かいご飯を食べるという簡単な行為さえ難しくなるのである。

実家のご両親に見てもらえるからいいじゃない？という声もあるかもしれないが実際預けた後に「疲れた」「あなただけいいね」など言われ嫌な思いをしたりする。また核家族化が進みワンオペ育児も増加している。そのような思いをしないように一緒に来て自分の時間を持てるように配慮している。

スタッフは看護師、保育士をはじめ、資格を有していないスタッフも仕事の合間に子育て支援員、子育て支援士を取得、救命救急講習を受講するなどスキルアップを日々しながら活動している。

全国に子どもと周りの目を気にせずゆっくりできる施設の発展性を目指している。

2019 年度には新しく 2 つの企画を実施した。

◎マルシェ（令和元年 8 月 25 日）

地域の交流の場とママたちが活躍できる場として 300 名以上が参加した。

- ・絵本カフェ架け橋のイベントで来ていただいているハンドメイド講師の先生に出店の依頼
- ・市内のお年寄りの方が作った農作物などを販売
- ・子どもが遊べる託児スペースの完備（ママがマルシェを楽しんでいる間）
- ・整体やマッサージのリラックススペースを作る

地域の交流が生まれることで新たなネットワークができ子育てしやすい街を作っていく。

◎出張託児

カフェに来るママたちの声で上の子の授業参観や行事で下の子がいてゆっくり見てあげることができなかつたと話を聞き出張託児があったらと考えた。

市内や近県のイベントの主催ママと参加ママのお子様の託児などを行った。

7 月 2 回、8 月 1 回、9 月 1 回、10 月 3 回、11 月 1 回、12 月 2 回、1 月 1 回、2 月 1 回、3 月 0 回

全体を通した 2019 年度の年次売上高は、昨年度と比較して 1.7 倍となった。また 3 月度月次売上を比べると、昨年比 3.74 倍の成長をした。

・絵本カフェ利用数：4 月 56 組、5 月 56 組、6 月 75 組、7 月 49 組、8 月 30 組、9 月 34 組、10 月 62 組、11 月 68 組、12 月 26 組、1 月 65 組、2 月 103 組、3 月 80 組

・イベント回数 4 月 7 回、5 月 7 回、6 月 6 回、7 月 8 回、8 月 6 回、9 月 5 回、10 月 6 回、11 月 8 回、12 月 7 回、1 月 6 回、2 月 4 回、3 月 4 回

・貸切依頼イベント 4 月 1 回、5 月 1 回、6 月 3 回、7 月 2 回、8 月 1 回、9 月 1 回、10 月 2 回、11 月 3 回、12 月 2 回、1 月 1 回、2 月 2 回、3 月 2 回



よさらいんフェスの様子。多くの市民団体、子育て世代に参加頂いた。



出張託児の様子。

3. ソーシャルアントレプレナーの資金調達支援事業

本事業では、クラウドファンディングを通して支援先団体の資金調達を支援している。2019 年度は、2 件行った。

3.1 クラウドファンディング支援

1 件目は、宮城県気仙沼市の「子育てシェアスペース Omusubi」の支援のために「特定非営利活動法人 Cloud JAPAN」名義で行った。

3 月 10 日から 5 月 28 日で支援を募り、217 名から 1,298,962 円を集めた。その後、改修事業まで Cloud JAPAN が担当し、運営から一般社団法人 Omusubi が担当した。

2 件目は、鹿児島県肝属郡錦江町の「ゲストハウス Yorodde」の支援のために「井上聡佑郎」（地域おこし協力隊）名義で行った。

10 月 30 日から 11 月 29 日で支援を募り、246 名から 2,198,239 円を集めた。Cloud JAPAN は上述の通り、町からの委託事業として講義、デザインや原稿編集などを行った。



4. 地域で活動するソーシャルアントレプレナーに係る情報発信事業

本事業では、情報を取りまとめ発信することでソーシャルアントレプレナーを支援している。2019 年度は、地域貢献型ゲストハウス開業合宿を企画し、全日計 27 名が参加した。

4.1 地域貢献型ゲストハウス開業合宿

以下の通り、開催要綱を記載する。

=====

タイトル：地域貢献型ゲストハウスの裏側研修ツアー in 架け橋

主催：NPO 法人 Cloud JAPAN

場所：気仙沼ゲストハウス " 架け橋 "

参加者：公募による応募者から本気度を質問事項にて確認した選抜メンバー

参加費：12,000 円（食事：22 日夜、23 日朝昼の 3 食付）

尚、当日は貸切となっておりますので飛び入り参加はご遠慮頂いております。

締切：2019 年 6 月 17 日 23 時 59 分

内容：

昨今、「ゲストハウス」という言葉を聞くことも増えてきた。

法的に定義されていないゲストハウスは、都会における安宿として、交流の拠点として、地域活性化の担い手として、、様々な場所で様々な機能を持つ。

今回の会場になる気仙沼ゲストハウス " 架け橋 " は、居間に昼夜問わず観光客や地域住民など老若男女が集う地域貢献型ゲストハウス（旅館業法上の簡易宿所）。

気仙沼のすべての宿の中で、Booking.com、airbnb の評価が一番高く、Facebook 上では 1 番いいね！数が多い。

昼間のゲストハウスの居間空間は、地域の子育てママが子どもと集うカフェ。スタッフも地域のママのみで構成され 0～2 歳の子どもと一緒に出勤し働いている。

宿の昼間の使われていない居間を使い、旅館業の売上を地域に還元することを目的に 2017 年 1 月から始まったが、雇用された子育てママがパワフルで、毎週イベントを開催したり、出張企画を行ったりと子育てママのアントレプレナーシップ発揮の場になっている。

事業全体で地域に 1.5 千万円 / 年の雇用を生み出し、地域住民の集うゲストハウスとしてニュースゼロやソトコトをはじめとして全国のメディアに掲載されている。

2013 年 空き家を改修してボランティアの宿を始める

2014 年 YOUNG JAPAN ACTION で日本一になる

（浅田真央氏を気仙沼に誘致）

2016 年 12 月 旅館業、飲食業の認可取得

スケジュールと講師紹介：

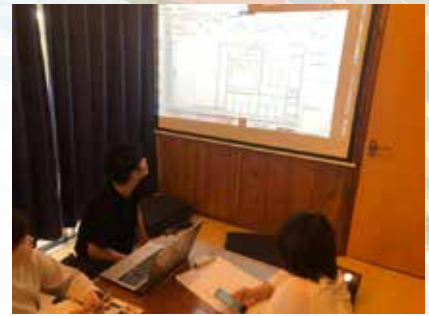
第 1 部 _6 月 22 日 (土) 12～18 時 _ 空き家の改修とゲストハウスの経営を学ぶ。

講師：田中惇敏 (NPO 法人 Cloud JAPAN 代表理事、株式会社おかえり代表取締役社長、一般社団法人 Omusubi 代表理事)

1993 年 1 月 13 日、福岡県北九州市生まれ、26 歳。

九州大学工学部建築学科 2 年次の 20 歳の時にゲストハウス架け橋を設立、ゲストハウスの青本と言われる「まちのゲストハウス考」共著者であり、論文や講演でゲストハウスにおける地域活性化の可能性について示唆する。

第 1 部では、設立当初からの失敗も含めた講演で話せないような紆余曲折、実際の施工箇所を確認しながらの空き家改修におけるノウハウ、ゲストハウス経営における数字の見方を伝授する。



ゲストハウスでの講義の様子

第 2 部 _6 月 23 日 (日) 8 ～ 15 時 _ ゲストハウスの毎日を学ぶ。

講師：村松ももこ (NPO 法人 Cloud JAPAN 理事、看護師)

1991 年 2 月 8 日、静岡県御前崎市生まれ、28 歳。

大学では看護を専攻し、神奈川の小児病院に 2 年半勤務。もともと旅が好きで、看護師を辞めてからは日本一周の旅に出る。その旅程で 2016 年 8 月たまたま気仙沼を訪れる。

気仙沼での滞在中に人の温かさを感じ、2016 年 11 月に気仙沼に移住。

架け橋の改修、絵本カフェの立ち上げを行う。現在被災地ではない気仙沼の良さを伝えるべく日々奮闘する。ニュースゼロ、シューイチ、NHK 仙台など多数出演。

第 2 部では、ゲストハウスオーナーとして毎日のゲストハウス運営を担っているため、日々のタスクにおける留意点や運営上出てくる課題、地域連携のノウハウなどを実際に体を動かしながら学ぶ。



夜は住民との交流会を行った。

第 3 部 _6 月 24 日～6 月 27 日 _ スタッフになる。

自由参加制 (宿泊費、交通費、食費は参加者負担) であるが、実際にゲストハウス架け橋のヘルパーとして田中と村松と共に働き、毎日の流れや観光客や地域住民との心地よい交流を生み出すスキルを学ぶ。また、近隣のゲストハウス (3710 を予定) を視察する。

=====



5. ソーシャルアントレプレナーの育成及び事業促進の教育支援事業

本事業では、事業運営団体に実際に所属し、教育的な視座からソーシャルアントレプレナーを支援している。2019 年度は、社内から指導することで 2 法人の設立に関わった。

5.1 特定非営利活動法人新川田箆環境資産保全研究会 理事就任

福岡県うきは市の新川田箆地区には、日本棚田百選に選ばれた「つづら棚田」や国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された伝統的民家群などの優れた文化的資源が数多く存在し、魅力的な地域景観を作り出している。一方で、新川田箆は他の山村同様、過疎高齢化の問題を抱えている。それにより地域の担い手が減少し、棚田や茅葺民家などの「環境資産」も維持が難しくなっており、この状況は今後さらに深刻化していくことが予想される。

それを乗り越える鍵は、実はこれらの「環境資産」を護り育てていくことにある。そのためにも、まずは、生活や生産と一体となって維持されてきたこれら環境資産の価値を正しく理解し、そしてそれらの上に新たな「営み」を形成していく必要があると考えられる。

この法人は、上のような視点から、新川田箆をはじめとする地域の環境資産に関する価値理解のための研究、環境資産の保全およびそれを支える営みの再生に向けた事業を行い、その知見を広く発信することによって、わが国における地域社会の持続発展に寄与することを目的とする。

2019 年 10 月に NPO 法人格を取得した団体であるが、そのコアとなる活動の 1 つに申請者らがこれまで運営してきた、都市住民が棚田を学びながら米づくりに取り組む実践活動「棚田まなび隊」がある。

「棚田まなび隊」は、2014 年より 6 年間、田の農事暦に合わせて年 12 ～ 13 回程度の活動を行っている。隊員は若干の入れ替わりもあるが、毎年 30 名程度、2016 年からは隊員外の参加（ビジター）も受け入れ、毎年 30 人・回程度の参加がある。耕作田は毎年増え続け、現在は 5 枚の田を耕作している。2017 年からは福岡市内の無印良品キャナルシティ博多店とタイアップし、同店舗内で棚田に関する展示やトークイベントなどを開催している。

Cloud JAPAN 代表の田中が理事として就任した。

5.2 株式会社燈 取締役就任

空き家活用事業を通じて、錦江町民の町に対する関心・愛着の醸成・高揚、あるいは、町に不足していた機能の充足（子育て支援、教育支援、交流機能支援、情報発信その他）により、錦江町の活性化を図ることを目的として本プロジェクトが立ち上がった。今回の会社設立は、空き家という未利用資産と見なされているものを有用資産として活用するモデルケースとなりうるものであり、今後の発展に寄与する事例になることを目指す。

近年、錦江町では空き家問題が重要視されてきている。平成 31 年 3 月 31 日時点で 861 戸もの空き家が存在している。空き家が増えることの弊害として生活環境の悪化（害虫、小動物、老朽化による飛来物等）、景観悪化、経済損失などが挙げられる。その空き家に対する町の取り組みとして「空き家バンクの利用」「空き家解体」「空き家リノベーション事業」などがある。

Cloud JAPAN 代表の田中が取締役として就任した。また、5 株を NPO 法人 Cloud JAPAN 名義で所有している。



5.3 講演活動

2019 年度は以下の通り、15本の講演を行った。

日にち	場所	内容	参加人数
4月26日	錦江町	クラウドファンディング活用	17人
5月15日	九州共立大学	北九州学	40人
6月1日	博多駅九大 office	社会事業の作り方	5人
6月8日	錦江町	SWOT 分析	17人
6月24日	ETIC.	MAKERS OPEN CAMPUS	500人
8月25日	トヨタ財団	しらべる助成先進事例	40人
9月18日	オンライン Zoom	被災地のゲストハウスの今	12人
9月22日	HafH 長崎	災害レジリエンス	14人
9月23日	錦江町	セルフリノベーション	18人
11月2日	錦江町	ゲストハウスの現場運営	11人
11月20日	ETIC.	NPO 起業	23人
11月21日	北九州市	東筑高校くきのうみ東筑会	250人
11月26日	自由ヶ丘高校	しごとのチカラ	40人
12月8日	九州大学	TEDxKU 明日からの愛	100人
1月26日	錦江町	Web サイト作成方法	13人



TEDxKU 運営メンバーと登壇者

6. 運営組織

以下の通り、役員の役職と所属をまとめ、社員の名簿をまとめる。

代表理事：田中 惇敏（九州大学大学院人間環境工学府都市共生デザイン専攻）

副代表理事：勝水与茶（Hostel KIKO 代表）

理事：村松ももこ（一般社団法人 Omusubi 代表理事）

喜多恒介（株式会社キタイエ代表取締役）

小出悟（みしおね横丁 ワルンマハール店長）

監事：谷川徹（e.lab 代表）

社員：君塚聖偉、藤岡愛理、佐藤京美、半沢裕子、鈴木和海、竹中幸、佐川彩花、佐藤沙織、菅原アンナ、伊藤愛、岩渕福美、高田美由紀、佐藤慶治、青木千弓、川嶋奎



2019 年度スタッフ集合写真

7. 取材対応

7.1 書籍出版

今年度は発刊していない。

7.2 新聞、メディア

日付	媒体	日付	媒体
2019/6/21	NHK てれまさむね	2020/3/3	ケーネット
2019/8/28	ケーネット	2020/3	KBC テレビ「アサデス。KBC」
2019/12/30	河北新報	2020/3/7	FM COCOLO 「僕らは海峡を渡る」
2020/1/20	毎日新聞	2020/3/7	夕刊 毎日新聞
2019/11	フリーペーパー 地元を支える HERO		
2020/2/22	TBC テレビサタデーウォッチ		
2020/2/27	FM ひらかた 「週刊★東北だより」		



8. 収支報告

8.1 2019年度活動計算書

平成31年 4月 1日 ～ 令和2年 3月 31日 まで

(単位:円)

科 目	金 額		
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	130,000		
賛助会員受取会費	0	130,000	
2. 受取寄付金			
受取寄付金	1,203,675	1,203,675	
3. 受取助成金等			
受取公的補助金	683,000		
受取公的助成金	3,269,000		
受取民間助成金	6,412,375	10,364,375	
4. 事業収益			
事業収益	11,181,365	11,181,365	
5. その他収益			
受取利息	39		
雑収益	0	39	
経常収益計			22,879,454
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
役員報酬	0		
給料手当	8,255,199		
福利厚生費	413,962		
法定福利費	664,441		
人件費計	9,333,602		
(2) その他経費			
通信運搬費	876,992		
賃借料	39,000		
地代家賃	2,199,200		
旅費交通費	1,432,878		
諸会費	83,000		
水道光熱費	836,945		
租税公課	381,000		
法定福利費	60,766		
支払手数料	379,352		
売上原価	1,320,531		
修繕費	4,960,408		
衛生管理費	384,349		
協礼謝金	94,920		
印刷製本費	3,320		
備品消耗品費	578,123		
雑費	112,470		
その他経費計	13,743,254		
事業費計		23,076,856	
2. 管理費			
(1) 人件費			
役員報酬	0		
給料手当	0		
法定福利費	0		
人件費計	0		
(2) その他経費			
通信運搬費	21,600		
地代家賃	240,000		
支払手数料	2,741		
保険料	53,600		
その他経費計	317,941		
管理費計		317,941	
経常費用計			23,394,797
当期正味財産増減額			△ 515,343
前期繰越正味財産額			3,293,635
次期繰越正味財産額			2,778,292

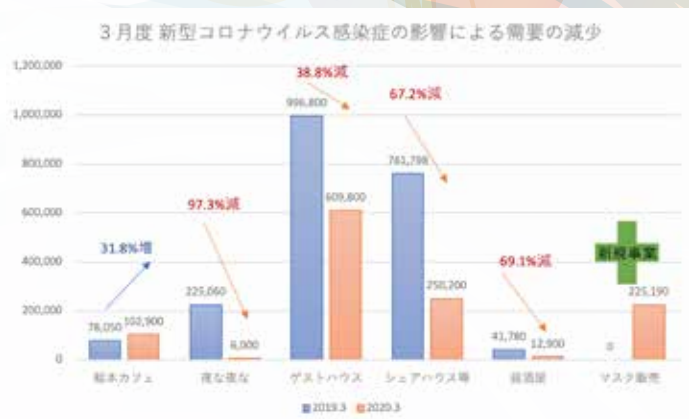


8.2 事業別損益の状況

右表の通り、旅館業と飲食業が事業収入の約半数を占める弊法人では新型コロナウイルス感染症の影響は大きかった。

一方、絵本カフェスタッフの始めたマスク販売等の新規事業が立ち上がったり、改めて社会の変化に対応していく必要があることを学んだ。

4月以降の感染拡大本格化後の活動については来期の事業報告書にまとめる。



(単位:円)

科 目	ソーシャルアントレプレナーおよびその関係者が集う場づくり支援事業	ソーシャルアントレプレナーおよびその関係者が集う場運営事業	ソーシャルアントレプレナーの資金調達支援事業	地域で活動するソーシャルアントレプレナーにかかわる情報発信事業	ソーシャルアントレプレナーおよびその関係者の育成および事業促進のための教育支援事業	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益								
1. 受取会費	0	0	0	0	0	0	130,000	130,000
2. 受取寄付金	0	0	0	0	0	0	1,203,675	1,203,675
3. 受取助成金等	0	0	0	0	0	0	0	0
受取公的補助金	683,000	0	0	0	0	683,000	0	683,000
受取公的助成金	3,269,000	0	0	0	0	3,269,000	0	3,269,000
受取民間助成金	6,412,375	0	0	0	0	6,412,375	0	6,412,375
4. 事業収益	3,681,185	6,288,520	0	11,660	1,200,000	11,181,365	0	11,181,365
5. その他収益	0	0	0	0	0	0	39	39
経常収益計	14,045,560	6,288,520	0	11,660	1,200,000	21,545,740	1,333,714	22,879,454
II 経常費用								
(1) 人件費								
役員報酬	0	0	0	0	0	0	0	0
給料手当	2,501,300	5,753,899	0	0	0	8,255,199	0	8,255,199
福利厚生費	3,067	410,895	0	0	0	413,962	0	413,962
法定福利費	197,172	467,269	0	0	0	664,441	0	664,441
人件費計	2,701,539	6,632,063	0	0	0	9,333,602	0	9,333,602
(2) その他経費								
通信運搬費	216,662	185,375	130,800	0	344,155	876,992	21,600	898,592
賃借料	39,000	0	0	0	0	39,000	0	39,000
地代家賃	1,010,000	1,189,200	0	0	0	2,199,200	240,000	2,439,200
旅費交通費	1,113,937	27,940	0	0	291,001	1,432,878	0	1,432,878
諸会費	28,000	5,000	0	0	50,000	83,000	0	83,000
水道光熱費	372,751	464,194	0	0	0	836,945	0	836,945
租税公課	0	381,000	0	0	0	381,000	0	381,000
法定福利費	48,266	0	0	0	12,500	60,766	0	60,766
支払手数料	50,782	328,570	0	0	0	379,352	2,741	382,093
売上原価	436,952	883,579	0	0	0	1,320,531	0	1,320,531
修繕費	4,955,408	5,000	0	0	0	4,960,408	0	4,960,408
衛生管理費	247,274	137,075	0	0	0	384,349	0	384,349
協礼謝金	94,920	0	0	0	0	94,920	0	94,920
印刷製本費	3,320	0	0	0	0	3,320	0	3,320
備品消耗品費	578,123	0	0	0	0	578,123	0	578,123
雑費	112,470	0	0	0	0	112,470	0	112,470
保険料	0	0	0	0	0	0	53,600	53,600
その他経費計	9,307,865	3,606,933	130,800	0	697,656	13,743,254	317,941	14,061,195
経常費用計	12,009,404	10,238,996	130,800	0	697,656	23,076,856	317,941	23,394,797
当期経常増減額	2,036,156	△ 3,950,476	△ 130,800	11,660	502,344	△ 1,531,116	1,015,773	△ 515,343



9. 終わりに

2019 年度も皆様の日頃のご支援のおかげで実りの多い 1 年となりました。

この場をお借りして心より感謝申し上げます。

一方、2020 年 3 月から社会情勢の変化の渦中にあり、初めての単年度赤字を計上する結果になりました。

日本経済新聞電子版（2020/5/18）によると、「4～6 月期の成長率は平均で前期比年率マイナス 21.2%。17.8% 減を記録したリーマン・ショック後の 09 年 1～3 月期を超え、戦後最大の落ち込みとなる。3 期連続のマイナス成長は東日本大震災のとき以来」であると言われていたが、東日本大震災復興について研究並びに実践してきた私としては、どちらの場合をとっても多くの「学び」こそあるが、人類は必ず復興すると考えています。

人類が新型コロナ（COVID-19）の免疫を獲得する、抗体が完成するなどして落ち着きを取り戻した時をアフター・コロナの時代だと定義すると、その時にどのような「学び」が生まれるかを整理し、その学びから私たちを取り巻く環境がどう変わるかを想像しながら活動を進めていければいいと思っています。

一つ目は「職住分離」の必要性についてです。私たちは、ネットワークが発達してなく、ペーパーワークが主だった時代から、一部を除きオフィスで働くことを辞める動きをしてきませんでした。それが今回の社会情勢の変遷により、自宅で働くことを強いられます。

株式会社リクルート住まいカンパニーの調査結果（2020 年 5 月 22 日）では、「会社員 / 公務員の 47% がテレワークを実施しており、昨年 11 月調査時に比較し 30 ポイント増加」という結果が出ています。一方、同調査では「テレワーカーのテレワーク実施場所としては、リビングダイニング（ダイニングテーブル）が 55% と、昨年 11 月調査時に引き続き最も多い」「引き続きテレワークを行う場合、テレワーカーの 48% が間取り変更を希望し、24% が現在の家からの住み替えを希望している状況」という結果も見えてきました。日本経済新聞 2020/5/15 付 朝刊 の「株式会社ドワンゴは、コロナ収束後も全社員約 1,000 人を原則、在宅勤務とする。」などをはじめとし、IT 系企業やベンチャー、個人事業主を中心にオフィスが必要ないという学びが生まれてきています。

現在の都市住宅では、このニーズに対応できないことは明らかであり、より広く、より周辺の住環境の良い住宅供給ニーズが増えることは明白です。都会の 1K の高層マンションから地方の別荘のような邸宅への引っ越しが始まるのではないのでしょうか。その時にこれまで私たちが活動してきた地方での空き家活用という文脈で、うまくストックを活用し、私たちのビジョン達成に向けて尽力して参りたいと思います。

2 つ目は、生活領域について、コロナウイルスによる影響が落ち着いた後でも社会人の仕事環境やコミュニケーション手法（オンライン飲み会）はもちろんのこと、子どももインターネット社会（オンライン）で学ぶことを覚え、家庭環境や個人の特性に寄っては学校に行かなくてもよくなる社会が到来するなど、新しい時代の「生活領域」は、より自宅等に籠もることになるでしょう。1 歳の子が iPhone の基本操作を行い、小学生の「小学校の友達より（ゲーム等の）オンライン上の友達の方が多い」という声などを現場で見聞きしているので、私たちより子どもたちの方が変化に対応しうるのかもしれない。

今回の状況下でも、インバウンドに頼りきっていたゲストハウスは、観光客の大幅な減少という波に対応できなかったということを聞きました。しかし、あるゲストハウスでは、旅館業を中止し改修を行った上で完全シェアハウス化する、地方のゲストハウスでは避疫場所としての活用という対応を行い、収束することを待っているところもあります。これが設計業者や建築家が現場に駆けつけることのできない現在の中で出来たのも素人が利用者目線で改修することのできるスキルを持ち合わせていたからだと感じます。このようなことを考えると、「建築の大衆化」はますます進むことになり、私たち Cloud JAPAN の役目は更に必要となると感じています。

変化量に差はあれど、社会は常に変化の中にあります。社会課題解決の場としての地域の空き家を取り扱う私たち、そして、これまで出会ってきたソーシャルアントレプレナー、これから出会うであろう社会を変える仲間たちと挑戦をし続けていきたい所存です。

2020 年度もよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 Cloud JAPAN

代表理事 田中 惇敏



Cloud JAPAN